

2012年1月27日

東大阪地域労組「働く仲間の会」

東大阪地域労組「働く仲間の会」

〒578-0985

東大阪市中野南1-36

かわち勤労会館内

TEL 072-961-6653

FAX 072-961-6432

NO.156号

発行責任者

河野 禮三

# 仲間の会ニュース

## 大阪府教育基本条例・職員基本条例 阻止へ全力を！

大阪府松井知事と大阪市橋下市長は2月23日から始まる大阪府議会に「大阪府教育基本条例」と「職員基本条例」を提案、成立させようとしています。特に教育基本条例は職務命令に2度従わなかった教職員を免職にする、5段階相対評価をつけ、2年連続最低評価の者は免職など教職員へのしめつけが大きな問題になり、子ども達にとつて教育基本条例がどうなのか、あまり語られていません。しかし一番大切なのは、子どもへの教育がどうなるかです。

「できる子だけを大切にする教育に」

大阪府内には1000の小学校と500の中学校があります。そのすべての学力テストの結果を公表するといいますが、なぜ公表するのでしょうか。それは学校選択制で自分の行く学校を決める目安にしようとするためです。学力テストの成績の高い学校には生徒が集まり、成績の低い学校には生徒が集まらず、生徒が少なくなつてクラブも成立しなくなり、魅力がなくなつて余計に生徒が集まらなくなりま

す。橋下市長は大阪府立小学校の1/3を統廃合対象としています。そして廃校になつた小学校は私学に売り渡し、義務教育に対する市や府の責任を軽減していくというのです。また、学力テストの成績の高い校区の地価は2割ほど上がり、その地域の近くに転居できるのは金持ちだけ、成績の低い学校では、「どうせ、おいらはアホ学校」と生徒達は荒廃し、学校が荒れていきます。40数年前、東大阪では校区制はあつても、越境入学がたくさんあり、「河内の学習院」とよばれる学校には他地区からたくさん入つてきました。一方、越境で出ていく生徒が多い学校は荒れに荒れ、そうしたことから、東大阪市は「しない、させない越境入学」と越境に対して厳しくし、荒れる学校への手だてもしながらかく克服してきたのです。

府立高校も学区を廃止し、府内全域を通学区制に

府立高校の学区制を廃止し、府内全域を通学区制にすれば、仮に120校あれば、120の序列が生まれ、同じ成績のもの何校かに集中すれば、たくさん入学できない生徒が生まれ、定員に満たない学校が生まれます。3年連続

### 知を力に

労働学校東大阪「総合教室」

開講 2月1日(水) 4月4日(水) 全10回

1月18日、労働学校東大阪「総合教室」開講に先立ち、ブレ労働学校が若江岩田の希来里の研修室で開催されました。38人が参加し、「働く仲間の会」からも\*、\*、\*、河野、楠本の4名が参加しました。中田進先生からは、最初に橋下大阪市長、松井大阪府知事が進める教育基本条例や職員基本条例の危険なところが説明されました。また、野田首相の進める消費税率8%、10%引き上げについて、政党助成金や米軍への

思いやり予算をカットし、大企業の内部留保の10%を低利の国債に振り向けさせることができれば、充分東日本大震災の復興資金はまかなえる」と説明されました。毎日のように大新聞やテレビなどのマスコミが消費税増税の必要性を宣伝しているが、国民の中には消費税増税に反対する空気は根強い、なんとし、政治を変えていこうと訴えました。



で定員割れした学校は統廃合され、近くに自分の成績で行ける学校がないため、岬町や能勢町まで通う生徒が出てきます。かわち野高校や布施北高校は定員割れを起こしていますから廃校対象校です。こういう高校が廃校になれば、行く場を失う中学生がたくさん生まれます。一方進学指導特色校とよばれる北野高校など10校には各校160名の定員で、文理学科がおかれています。この1600名の生徒は、いまでも校区をはずし、府下から応募できます。この

文理学科には、各校2000万円の特例予算が支給されています。つまり平等ではなく、できる子を特別にえこひいきする教育なのです。

学校選択制はすでに各地で破綻、もともとは府県も学校選択制は全国の約15%で実施されていますが、群馬県前橋市では今年から廃止し、長崎市も来年度からやめると決めています。

長崎市の教育長馬場豊子氏は「予期しないことが起きた。子供が巻き込まれる事件をきつ

### 河野委員長、大阪民主新報に紹介記事

#### 中小企業の街で労働者の権利を守る



「二度と就職できなくしてやる」—15年前、信頼し合っていたはずの社長から恫喝されました。解雇された

部下の相談に乗ったことが発端で懲戒解雇。それまで労働組合に縁のなかった河野禮三さん(70)＝東大阪市在住＝は「自分は労働者だったんだ」と気付かされました。

東大阪労連に相談し、8年間のたたかいで会社と和解。「労働者の義務を知りながら権利を

主張していけば、問題は必ず解決する」と学びました。

未組織労働者の多い中小企業の街・東大阪市で、01年に一人でも入れる地域労組「働く仲間会」が再建され、執行委員長に。毎年のメーデー前夜祭で、組合員の争議を題材にした演劇を披露しています。傷ついた労働者や家族が会社とたたかい生活を取り戻していく様子を、東大阪労連の組合員らが熱演しました。

再建10周年の昨年、演劇脚本集『タイムカードは夫の遺言状』を出版しました。変わらないテーマ「必ず仲間はいる」が貫かれています。

かけに地域と学校の結びつきが強まっていたのに、選択制にしたために地域の行事に参加しなくなる子が増え始めた。子供は家庭や地域で育つ。『地域活動に支障をきたすような制度が本間に子供のためになるのか』と疑問がでてきた」と発言しています。よそでやめ始めた制度をなぜ、大阪で始めるのか大いに声を上げていこうではありません

か。このような、できる子にはえこひいきし、できない生徒は切り捨てる、こんな無茶苦茶な教育制度を強引に押しつけるためにこそ、教職員に物を言わせない・批判を許さない管理統制を加えるのが、橋下徹氏の推し進める教育基本条例なのです。この条例の本質を広く府民に知らせ、反対の声を高めていきましょう。

#### 書評

私は、書評を書くようになって、毎日新聞や赤旗の書評欄を

毎週丹念に読むようになった。買うのに値段が手頃で、興味がひくような本がないか、一ヶ月間ほとんど毎日のように悩んでいる。そんなとき、大阪民主新報の「編集長のわくわくインタビュー」に取り上げられた人物がこの本の著者である。

余談だが、大阪民主新報は、私の好きな新聞である。編集長の佐藤圭子さんは、佐藤と砂糖をひっかけ、ケイ・シユガーとして歌を唄うなど楽しい人である。編集長になる前から、東大阪労連のメーデー前夜祭の取材に来てく

ださい」と要請すれば、必ず取材に訪れ、記事にしてくれた。今回、東大阪労連の出版した脚本書を紹介してほしい」と電話したら、「なにわじんぶつおうらい」で河野委員長を紹介、脚本書を紹介する場を提供してくれた。どうしてこの新聞がおもしろいのかというと、コテコテの大阪に



こだわっているからだろう。続き物に「なにわのヨツサン、とっておき音楽交遊録」「フロッグ西島のぶらり大阪」、先日までは、大阪の銭湯の記事があった。さらに、「事務局長の着物な日々」「ネット古書店主が選ぶ今週の一冊」など楽しみな連載ものがたくさんある。ぜひ、この新聞を手にとつて読んでほしい。さて、新聞の紹介はそれぐらいにして、本の紹介に移る事に

作者は、漫才師のTKO木下のお母さんであるらしい。私はテレビをあまり見ないのでTKOそのものはよく知らない。しかし、お母さんの生き方は想像を絶する。1946年生まれと言

#### 当面の日程

- 2月3日(金) 春闘学習決起集会 八尾プリズム研修室 午後6時30分
- 9日(木) 憲法宣伝 高井田駅 午後6時
- 17日(金) ディーセントワーク宣伝 長田駅 午前7時15分～8時
- 22日(水) 2条例阻止府民集会 中之島公会堂 午後6時30分
- 23日(木) 河内総行動 八戸ノ里駅宣伝 午前7時15分～8時 9時～申し入れ活動 河内勤労会館集合

うから、私たちと同じ団塊の世代である。10人家族の次女で、3畳と8畳の2間のみの家に住んでいた。ここまでは、日本人の平均的な生活でなかったかなと思う。私の生まれた家も空襲で焼かれた焼け跡に焼け残ったトタンや木材でつくったバラックだった。水道は一つのみ、雨の激しく降る日は、トタンにあたる雨音でうるさかったものだった。広さも3畳と6畳くらいで6人がひしめき合っていた。その子供時代の話より、17歳で結婚した相手の夫が見栄はりで、たえず借金をして逃げ回る。借金を返しても返しても、また借金をたか、本書を読んでも